

平成25年度 第4回 川崎市地域自立支援協議会連絡会議

「医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには」

支援者の立場から

平成26年2月14日(金)

地域相談支援センターそれいゆ
相談支援専門員 小松 江美



地域相談支援センターそれいゆ

- 登録者の年齢

0才～53才

- 医療的ケアを実施している方

登録者の約7割が常時医療的ケアが必要

- 医療的ケアの内容

人工呼吸器、吸引、注入、吸入、酸素療法、浣腸
など



山崎 裕太郎くんとの出会い

・平成20年11月 ソレイユ川崎のリハ課より相談

体調が優れず入退院を繰り返している

ソレイユ川崎への通院も移動することで体調が悪化するため外出できず利用できていない

・平成20年12月 初回訪問

インタビューを実施

関係機関から情報収集



相談の内容

- 訪問看護ステーションが撤退
- リハビリに通えない、本人に合った座位保持装置を作成したい
- 本人の体調が不安定、医療的ケアもあり母は外出もできない
- 主介護者である母は変形性股関節症を患っていて介護負担がある



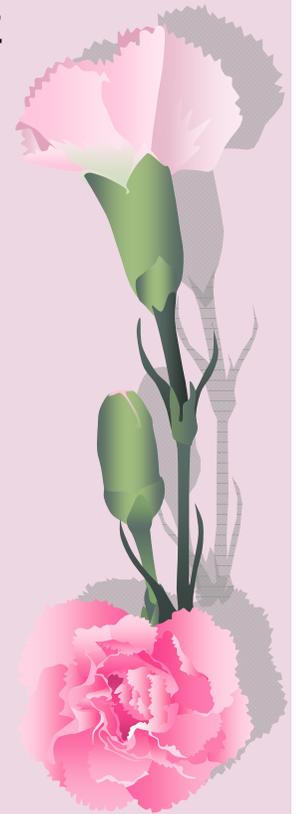
支援内容

- ・ 訪問看護ステーションの利用
利用まで・・・児童の対応ができる事業所が少なく時間を要したが週1回から開始
- ・ 訪問リハの利用
利用まで・・・ソレイユ川崎として何が出来るか？リハ課で検討し月1回の訪問を開始
- ・ 日中一時支援の利用
利用まで・・・医療的ケアに対応できる事業所が限られている、本人の体調や移動手段など課題もあり事業所も手探りの状況で週1回AMの利用を開始
- ・ 身体介護の利用
利用まで・・・児童や医療的ケアを行っている方にサービスを提供できる事業所が限られていたため見つからず事業所との調整を重ね週1回から利用開始



その後の支援経過

- 母の股関節の手術が決まったため手術前後のサービスの変更
- 本人の体調の安定により養護学校の訪問籍から通学籍に変更するための準備
- サービスを提供できるヘルパー事業所を増やすため事業所への支援
- 介護負担軽減のため在宅リハビリテーションサービス事業の導入



支援を振り返ってみて

～今後の課題～

- 本人や家族の状況に合わせ、必要な時に必要な支援
- 医療的ケアは生活の一部であることを踏まえ医療を含めたトータル的な支援が必要
- 医療的ケアを行いながら在宅で生活している方が希望する生活を送るために支援者や協力者を増やすための働きかけ

